

「2026・2027 年度熊本大学動物実験計画書」 作成における注意点

1. 教育訓練を受講していない場合(受講番号がない場合又は有効期限が切れた場合)は、受講番号欄に「受講予定」と記載してください。
2. 「研究課題」「研究目的」「具体的な研究計画と方法」の欄の「開示」か「不開示」に必ずチェックしてください。
- ※ 動物実験計画書について開示請求があった場合、学長の判断ですべての動物実験計画書を開示しなければなりません。極力、「開示」の方向で検討してください。なお、どうしても「不開示」の場合は、不開示の部分をマーカーで示し、その他は開示の方向で検討してください。もし、開示になってもマーカーで示した不開示の部分は、公開されません。
3. 苦痛のカテゴリーが D の場合は、エンドポイントを設定する必要があります。「具体的な研究計画と方法」の欄に具体的なエンドポイントを設定してください。
4. 使用動物の微生物学的品質、「SPF」「クリーン」「CV」の何れかに○をしてください。
5. 「上記動物の算出根拠とこの動物を使用しなければならない理由」の欄に、使用動物の算出根拠とこの動物を使用しなければならない理由を明確に記載してください(特に使用動物の算出根拠は、誰が見ても理解できるように記載してください)。
6. 「使用動物」の欄と「上記動物の算出根拠とこの動物を使用しなければならない理由」の欄に記載されている使用匹数が異なっている場合があります。両者の匹数の整合性を取ってください。
7. 「具体的な研究計画と方法」の欄と「想定される苦痛のカテゴリー」の欄に記載した区分が異なっている場合があります(例えば、「具体的な研究計画と方法」の欄では区分 C となっているが、「想定されるカテゴリー」の欄では D になっている)。両者の整合性を取ってください。
8. 苦痛のカテゴリーが複数ある場合 (C と D) は、「実験処理により動物にどのような苦痛が予想されるか具体的に記入」の欄に、カテゴリー C と D に分けて記載してください。
9. 動物資源開発研究施設を使用する場合、感染事故を防ぐため、他の施設とのクロスを禁止しています。動物の飼養保管場所が、動物資源開発研究施設と他の場所の 2 か所になっている場合は、それぞれの施設の使用に分けて動物実験実施者を記載してください。

10. 実験期間が2年間の場合は、1年間の使用動物数ではなく、必ず、2年間の使用匹数を記載してください。
11. 「使用動物」の欄には、繁殖に用いる動物も記載してください。
12. 遺伝子組み換えマウスを用いる実験の場合には、遺伝子組み換え生物等第二種使用等計画の承認を必ず受け、承認期間(5年間)が今回提出の動物実験の期間内に終了することのないように注意してください。なお、外来遺伝子を導入した細胞をマウスに接種する場合にも、遺伝子組み換え生物等第二種使用等計画の承認が必要です。
13. 次に示す作成資料(1～4)については、以下のURLから参照して下さい。
https://card.medic.kumamoto-u.ac.jp/animal_comittee/submitanimexpproto.html
「作成資料(pdfファイル)」をクリック
- (1) 資料1：苦痛カテゴリー検索表
実験手技毎に苦痛のカテゴリーを記載してください。
- (2) 資料2：実験動物の安楽死処置法
実験動物に安楽死処置を行う際は、実験目的に沿った適切な方法を選択してください。
- (3) 資料3：被験物質の投与及び採血
被験物質の投与や採血を行う場合は、投与もしくは採血の量、経路、回数等を記載してください。
- (4) 資料4：代表的な麻酔薬と鎮痛薬
手術等の痛みを伴う処置は、麻酔薬を使用する等できるだけ苦痛を与えないようにしてください(麻酔薬を明記してください)。
また、実験処置の侵襲度に合わせて鎮痛剤を使用する等の適切な疼痛管理を行ってください(疼痛管理を明記してください)。